

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	使用船隻數	總噸數	
日本郵船	1	1	4	3,446	三週一回
大阪商船	1	1	4	4,046	三週一回
國際汽船	1	1	1	1,550	約每月一回
不定期航線	1	1	1	1,550	約每月一回
パーバー、ウイルヘル	1	1	1	3,266	每月一回
アメリカン、モンセン、ライン	1	1	1	70,977	二週一回
アメリカン、ガルフ、ライン	1	1	1	41,333	每月一回
アメリカン、オリエンタル、ライン	1	1	1	3,747	每月一回
アメリカン、パイオニア、ライン	1	1	1	3,747	每月一回
メルスク、ライン	1	1	1	3,747	每月一回
リアドン、スミス	1	1	1	3,747	每月一回
バンク、ライン	1	1	1	3,747	每月一回
ダラー、ライン (紐育線)	1	1	1	3,747	同
イスマアン、ライン	1	1	1	3,747	同
					ボルチモア發
					ホストン發

(三) 世界一周航路

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	使用船隻數	總噸數	
ダラー、ライン	1	1	1	8,949	二週一回
青筒及エラマ	1	1	1	8,949	二週一回
共同經營航路	1	1	1	8,949	二週一回
ドッドウエル、キヤツスル、	1	1	1	3,273	每月一回
ラド、ス、ライン	1	1	1	3,273	每月一回
プリンス、ライン	1	1	1	3,273	二週一回
カー、ライン	1	1	1	3,273	二週一回
フアーン、ライン	1	1	1	3,273	二週一回

(四) 南米航路

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	使用船隻數	總噸數	
日本郵船 (西岸線)	1	1	4	3,446	年十回
大阪商船 (東岸線)	1	1	4	4,046	年十回
東洋汽船 (西岸線)	1	1	1	1,550	年十一回

(五) 濠洲航路

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	船隻數	總噸數	
日本郵船	三	一八〇九	三	三、八九〇	備考
大阪商船	一	一	三	一、六二九	
日本濠洲線(山下汽船)	一	一	一	一、八五〇	香港發
北獨口キ	三	九、六九九	一	一、七九八	
東濠汽船	四	一、五六三	三	一、七九八	メルホルン發
濠洲東洋船	二	四、五五六	二	八、六四八	
		不定期		每月一回	

(六) 印度航路

(イ) 甲谷陀航路

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	船隻數	總噸數	
日本郵船	三	一八、〇〇九	九	四、五三四	備考
大阪商船	一	一	六	三、二〇〇	
		四週一回		每月三回	
		四週一回		每月二回	

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	船隻數	總噸數	
英印汽船	七	四〇、四八七	六	五〇、七七〇	甲谷陀發
印度支那航業	一	二九、八六七	一	二七、四八五	
		約十一日		每月二回	
		約十一日		每月三回	

(ロ) 孟買航路

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	船隻數	總噸數	
日本郵船	六	二九、〇五九	九	五四、二九	備考
大阪商船	三	一五、〇四四	七	四〇、二二八	
彼阿汽船	四	三〇、一七〇	三	一七、三三三	孟買發
埃國ロキ	六	三八、〇〇〇	一	一	
		二週一回		每月二回	
		二週一回		每月二回	
		每月一回		每月二回	

備考 右ノ外「ロキド、トリエスチノ」社歐洲航路船孟買ニ寄港ス

(七) 阿弗利加航路

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	船隻數	總噸數	
大阪商船	一	一	五	四七、六三三	備考
バンク、ライオン	一	一	一	五、三三三	
		一		隔月一回	

(八) 南洋航路

經營者	戰前 (大正三年七月)		現在 (昭和六年十二月)		備考
	船隻數	總噸數	船隻數	航海回數	
大阪商船	—	—	四	每月一回	
南洋郵船	—	一五、五九	四	三週一回	
石原産業	—	—	六	每月三回	
瓜哇、支那、日本線	不詳	不詳	三、五、六	隔月一回	バタビヤ發
	約每月二回		二、三、四、五、六	每月一回	同
			三、五、六、七	每月一回	スラバヤ發
			二、三、四、五、六、七	每月一回	バタビヤ發

第四節 不定期船ノ狀況

第一項 概況

世界的海運不況ノ大勢ノ下ニ於テ本邦海運カ苦境ヲ脱スルニ至ラサリシハ何等怪シムニ足ラサル所ニシテ就中載貨ヲ求メテ各方面ニ轉々航行スル不定期船ニ在テハ特ニ甚シキヲ見ル

年初ヨリ四月末迄ハ濠洲小麥カ本邦、支那及印度等ノ東洋市場へ大量ニ積送セラレタル爲太平洋方面ヲ始メ其他遠洋各方面ノ大型船ヲ吸引セルノミナラス亦繫留中ノ大型船ノ出動ヲモ促スノ實狀ニ在リタルヲ以テ近海方面ノ船腹ハ不尠減少シ折柄滿洲特産物ノ出廻リ幅湊等ニ依リ近海船腹ハ幾分手薄トナリ不定期船界ハ一時小康ニ惠マレタリ然レトモ五月以降ハ前記濠洲小麥ノ出荷一段落ヲ告ケタルト太平洋方面ノ荷動不振トノ爲大型船ノ近海流入ハ八月中旬迄愈々繁キヲ加ヘタル一面、北洋方面流氷ニ祟ラレ船腹ノ消化意ノ如クナラス近海荷動一般ニ不振ナリシカハ近海船腹ハ自然著シク過剩ニ陥リ山下、國際、川崎、三井、大同各社ノ幹部ハ海運協和會ヲ成立(六月)シ對策ヲ講スルニ至レリ但シ昨年同期ニ比シ近海船腹ハ寧ロ稍減少ヲ示セルモ一般荷動亦夫レ以上ニ減退セルカ故ニ船腹ノ過剩ハ却テ甚シカリシモノノ如シ其後秋季各方面ノ貨物出廻リ期ヲ迎ヘ大手筋ハ遠洋配船ニ努メタル處偶九月中英國金本位制停止ニ依リ本邦船ノ海外出稼不利トナリ又滿洲ノ一角ニ突發セル日支衝突事變ニ隨伴セル支那及南洋方面ノ排日排貨ニ依リ此等方面ニ於ケル就航船激減ヲ餘儀ナクセラレ更ニ遠洋近海ヲ通シ一般荷動ノ不活潑ハ之ニ拍車ヲ加フルニ及ヒ茲ニ繫船激増シテ不定期船主ハ極度ノ悲境ニ彷徨シタリ

年末ニ於ケル金輸出再禁止ハ邦價爲替ノ下落ヲ來シテ斯界惡化ノ趨向ヲ多少ナリトモ緩和スルモノ

トシテ斯界一般ノ好感ヲ博シツアリ

本邦社外船配船狀況 (重量噸二千噸以上)

方 面	三月二十日現在		六月二十日現在		九月二十日現在		十二月二十日現在	
	隻數	重量噸	隻數	重量噸	隻數	重量噸	隻數	重量噸
歐洲方面	二四	二二八六五	二	一八四六二九	三	二七六六三三	四	三七三三三九
北米大西洋方面	二四	二〇六、七九六	三	一九一〇九三	一八	一五五、七九三	三	二〇三、六三五
日本—北米太平洋岸方面	四三	四一〇、三三三	四	四八、七四六	四	五〇、〇三五	四	五〇、八、六六
濠洲印度方面	七	六〇、〇八一	三	三〇、〇八八	二	二四、九九五	三	二六四、〇八五
南洋海峽殖民地方面	八	五五、九二七	四	三〇、〇六五	五	五七、〇七八	六	五八、一九八
近海一區	二八	一、八六、六四三	三	一七、二五七	三	一七、三、二九	二	一、二六八、三五九
入渠中區	四	二四、二七八	二	一九、六七二	一	九、八、六六	二	一四、五七〇
繫停船	五	一四、九九九	二	九、一七〇	一	七、一三九	六	三〇、〇七一
其他	六	三三、〇四一	三	一三、三三四	四	一七、五六七	一	一〇、一〇六
合計	五九五	三、四〇、七九二	五九〇	三、四〇、八二四	五九〇	三、四〇、八二四	五九五	三、四〇、七九二

尙參考ノ爲本年十二月末現在ニ於ケル總噸數千噸以上ノ本邦船舶ノ配船狀況ヲ見ルニ左ノ如シ  
總噸數千噸以上ノ本邦汽船配船表 (昭和六年十二月末現在)

方 面	一千噸以上		七千噸以上		一萬噸以上		計	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數		
沿 海	一六	三、一三、三三四	一	一八、二、九二	—	—	三九	四九六、四四五
朝鮮方面	七	二、四八、五五	八	二六、八八八	—	—	一五	一、五七、七四三
臺灣方面	三	五、六、六〇〇	三	一一、三三三	六	五三、八八三	一〇	三九、七五六
浦 鹽 方 面	八	一八、六六〇	二	四四、〇〇七	—	—	一〇	六二、六六七
北支那方面	四	九、八七二	四	二〇、一一二	—	—	八	二九、九、三三
中部支那方面	二	四七、五三三	三	八二、六七五	—	—	五	一二七、三六三
南支那方面	二	四〇、三五九	二	四八、〇一一	—	—	四	八八、三七〇
南洋方面	二	五、六三六	二	二七、八二八	—	—	四	一三三、四六四
海峽地方	—	—	一	七、五三三	—	—	一	七、五三三
印度方面	—	—	四	二五、二〇六	—	—	四	二五、二〇六
濠洲方面	—	—	四	二四、一四八	—	—	四	二五、一三三
太平洋島方面	—	—	五	一六、九七五	—	—	六	一九、四一九
東阿弗利加方面	—	—	四	三〇、七三五	六	五五、一五二	一〇	七五、八七六
北米西岸方面	—	—	四	二八、〇九七	二	一一、一一二	六	三九、二〇九
中 米 方 面	—	—	五	二八、六四一	—	—	五	二八、六四一
北米東岸方面	—	—	一	八、七、四七	—	—	一	八、七、四七
合計	—	—	—	—	—	—	—	—

第二章 本邦海運ノ概況

第四節 不定期船ノ狀況

一九五

計	歐洲方面		南米西岸方面		南米東岸方面		其他
	噸	噸	噸	噸	噸	噸	
四三三	八五六	二五三	四七二	二二七	二七五	二七五	四三三
八五六	二五三	四七二	二二七	二七五	二七五	四三三	八五六
二〇	一五〇	二〇	一五〇	二〇	一五〇	二〇	二〇
七六	六四六	七六	六四六	七六	六四六	七六	七六
一九	三二七	一九	三二七	一九	三二七	一九	三二七
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

第二項 運賃及備船料

(一) 運賃

本邦ヲ中心トスル遠洋方面ハ前述ノ如ク年初以來四月末迄濠洲小麥ノ東洋市場ヘノ投賣ニ依リ市況一時活況ヲ呈シタル外ハ各方面共全年ヲ通シ世界的財界ノ不況ニ祟ラレテ運賃一般ニ低廉ノ域ヲ脱スルニ至ラサリキ既ニ遠洋方面ノ市況ニシテ右ノ如クナル以上近海運賃市況ノ芳シカラサリシコトハ推測スルニ難カラサル所ナリ前記濠洲小麥ノ積送旺盛ノ影響ヲ受ケ近海各方面ノ運賃ハ一様ニ漸次騰貴シ例セハ九州横濱間石炭ハ噸當リ一月ノ七十錢ヨリ四月ニハ一圓二、三十錢ニ上リ、同期間ニ於テ大連神戸間豆粕ハ一擔ニ付五、六錢ナリシモノ十錢トナリ、樺太内地間木材ハ丸材百石ニ付八十五圓ヨリ百二、三十圓ニ擡頭シタリ而シテ五月中ニ於テハ濠洲小麥ノ積出減少ノ爲運賃ハ幾分引緩ミタルカ

六月以降ハ右荷動一段落ヲ告グルト共ニ運賃ハ漸落ヲ重ネ年末迄ハ反撥スルコトナカリキ即チ夏季中ハ近海運賃ノ花形タル北洋材ハ積取最盛期ナリシニ不拘樺太内地間高々九十五圓ヲ出テスシテ甚シキハ七十五圓ニ暴落シ從テ其他ノ運賃モ其軌ヲ一ニシ七月ニハ石炭ハ九州横濱間遂ニ一圓臺割レヲ演シ豆粕亦大連神戸間六錢ニ低落シタリ其後モ運賃持直スコトナク九月ニ入リシカ日支事變突發及英國金本位制停止ノ厄ニ遭ヒ運賃次第ニ下落シ遂ニ十二月ニハ九州横濱間石炭ハ六十五錢、大連神戸間豆粕ハ四錢、樺太内地間木材ハ四十二圓乃至五十圓ノ安値ヲ現出セリ但シ年末ニ於ケル我邦ノ金輸出禁止等ニ依リ運賃モ引締リ氣配ニ轉シタリ

本年ニ於ケル標準運賃變動ノ跡ヲ表示スルニ次ノ如シ

(一) 石炭 運賃 (一噸ニ付)

昭和六年	九州横濱間		九州上海間		九州香港間		九州新嘉坡間	
	月最	月最	月最	月最	月最	月最	月最	月最
一	七〇	七〇	八五	八五	六五	六五	三五	三五
二	七五	七五	八五	八五	六五	六五	三五	三五
三	七〇	七〇	八五	八五	六五	六五	三五	三五
最高	七〇	七〇	八五	八五	六五	六五	三五	三五
最低	七〇	七〇	八五	八五	六五	六五	三五	三五

昭和六年一月

八五<sup>円</sup>

二

月<sup>最</sup>

高低

一三九〇五<sup>円</sup>

(三) 木材運賃

(樺太内地間丸材百石ニ付)

十 二 月 最	十 一 月 最	十 月 最	九 月 最	八 月 最	七 月 最	六 月 最	五 月 最	四 月 最	三 月 最	二 月 最
高低	月	高低	高低	月	月	高低	高低	月	高低	高低
〇〇 六四	〇 四	〇〇 五四	〇〇 六五	〇 六	〇 六	〇〇 七六	〇〇 九八	一 〇	一 〇	一〇 〇九
〇〇 八五	〇 五五	〇〇 六五	〇〇 七六	〇 七	〇 七	〇〇 九八	一〇 一九	一 一	一 一	一〇 二〇
〇〇 八五	〇 五五	〇〇 六五	〇〇 七六	〇 七	〇 七	〇〇 九八	一〇 一九	一 二	一 二	一〇 三一

(二) 豆粕運賃

(一擔ニ付)

一 月 最	昭 和 六 年	十 二 月 最	十 一 月 最	十 月 最	九 月 最	八 月 最	七 月 最	六 月 最	五 月 最	四 月 最
高低	高低	高低	月	高低	高低	高低	高低	高低	高低	高低
〇〇 六五	〇〇 六五	六五 六五	六五 六五	八六 〇五	八八 五〇	九 〇	九九 五〇	〇〇 五〇	二〇 五五	三二 〇〇
〇〇 六五	〇〇 六五	九八 〇〇	八 〇	〇〇 〇〇	〇 〇	二〇 〇〇	二〇 〇〇	四二 〇〇	六四 〇〇	六四 〇〇
〇〇 六五	〇〇 六五	一 〇	一 〇	五 〇〇	五 〇	七 〇〇	七 〇	八 〇〇	〇 〇	二 〇〇
〇〇 六五	〇〇 六五	一 〇	一 〇	一 〇〇	一 〇	二 〇〇	二 〇	二 〇〇	二 〇〇	三 〇〇
〇〇 六五	〇〇 六五	一 〇	一 〇	一 〇〇	一 〇	二 〇〇	二 〇	二 〇〇	二 〇〇	三 〇〇

三	四	五	六	七
月	月	月	月	月
最	最	最	最	最
低	低	低	低	低
一三〇五	一三〇〇	一一〇五	八七五	八七五
八	九	十	十	十
月	月	月	月	月
最	最	最	最	最
低	低	低	低	低
二	一	一	一	一
月	月	月	月	月
最	最	最	最	最
高	高	高	高	高
八八〇	八六五	六四二	五四〇	五四〇

(二) 備 船 料

年初ニ於ケル濠洲小麥ノ東洋市場ヘノ大移動ニ依リ大型船ノ料率騰貴シ次テ北洋材、北洋漁業、臺灣糖、北清及朝鮮方面ノ雜穀積取ノ爲中、小型船ノ需要擡頭シ來リ四月末ニ至ル迄ハ各型共一般ニ料率硬化セリ然ルニ五月以降夏季中ハ近廻リ一航海備船ノミ稍活潑ナリシニ止マリ長期物ハ先行不安ノ爲見送ラレ料率ハ各型船ヲ通シ大反落ヲ來セリ九月ニ於テハ當初遠洋荷動漸増ニ伴ヒ大型船料率擡頭ヲ期待セラレタルカ英國金本位制ノ停止ニ依リ一頓挫ヲ餘儀ナクセラレ、中、小型船モ亦日支事變ノ勃發ト勘察加漁場引揚用日借備船一段落トニ祟ラレ、料率思ハシカラス爾來十二月迄市況萎縮沈滞シ

遂ニ繫船ヲ免ルル爲損益折半ヲ條件トシテ「オペレーター」ニ配船ヲ委託スル者續出スルニ至レリ但シ年末金輸出再禁止ニ依リ運賃先高見越ノ爲備船商談擡頭セルモ尙未タ安値ナリシヲ免レサリキ

本年ノ備船界ニ於テ特ニ看過シ得サルモノハ勞農ノ勘察加漁場用備船カ前年ノ域ニ達セサリシコト及山下ヨリ分離セル大同海運カ山下ト競争シテ船腹ノ手當ヲ行ヒタル爲初春ニ於ケル備船料ノ昂騰ヲ促シタルコトナリトス

左表ハ本年各月ニ於ケル定期備船料ヲ示セルモノナルカ本年ニ於ケル最高及最低値ヲ檢スルニ大型船ニ於テハ最高ハ三、四月ノ二圓五十錢最低ハ年末三ヶ月ノ七十錢ニシテ中型船ニ於テモ同シク三、四月ノ二圓五十錢ヲ最高トシ年末三ヶ月ノ一圓ヲ最低トス又小型船ニ於テハ幾分右ト異リ近海一區ニ在テハ最高ハ二月ヨリ十月ニ至ル九月ノ三圓ニシテ最低ハ年末二ヶ月ノ二圓ナルカ近海二區ニ在テハ春季及九、十月ノ二圓八十錢ヲ最高トシ年末三ヶ月ノ一圓五十錢ヲ最低トス

尙本年ト前年トノ料率ヲ比較スルニ大型船ハ一月ヲ除キ上半期中ハ十錢乃至九十錢方高ク下半期中ハ七、八月カ大體變化ナキノミニテ九月以降ハ五錢乃至四十錢方低廉ナリ中型船モ大型船ト殆ント軌ヲ一ニシ一月及五月ヲ除キ上半期中ハ三十錢乃至一圓二十錢方高ク、下半期ニ於テハ九月ノミカ前年ト同様ナリシ外概シテ二十錢乃至五十錢方ノ安値ヲ示セリ小型船ハ一區ニ於テハ只四、五月ニ於テ三

十錢乃至八十錢、年末ニ於テ五十錢乃至八十錢ノ各低落ヲ見タル外一般ニ前年ト大差ナク二區ニ於テハ上半期中ハ年初三ヶ月カ三、四十錢六月カ二十錢乃至七十錢夫々高價ナルニ反シ四、五月ハ二十錢乃至八十錢安ク下半期中ハ九月迄ハ大差ナク年末ノ三ヶ月ハ十錢乃至八十錢ノ安値ニ在リタリ

定期備船料 (重量噸一噸當ニ付)

昭和六年	大	中	小
昭	大	中	小
和	型	型	型
六	船	船	船
年	型	型	型
一	船	船	船
月	型	型	型
最	船	船	船
最	型	型	型
高低	船	船	船
高低	型	型	型
一	船	船	船
月	型	型	型
最	船	船	船
最	型	型	型
高低	船	船	船
高低	型	型	型
二	船	船	船
月	型	型	型
最	船	船	船
最	型	型	型
高低	船	船	船
高低	型	型	型
三	船	船	船
月	型	型	型
最	船	船	船
最	型	型	型
高低	船	船	船
高低	型	型	型
四	船	船	船
月	型	型	型
最	船	船	船
最	型	型	型
高低	船	船	船
高低	型	型	型
五	船	船	船
月	型	型	型
最	船	船	船
最	型	型	型
高低	船	船	船
高低	型	型	型

第三項 船價

六	七	八	九	十	十	十
月	月	月	月	月	月	月
最	最	最	最	最	最	最
最	最	最	最	最	最	最
高低	高低	高低	高低	高低	高低	高低
一・二 一・六〇	一・九 一・〇〇	一・九 一・〇〇	一・九 一・〇〇	一・九 一・〇〇	一・七 一・〇〇	一・七 一・〇〇
一・八 一・〇〇	一・六 一・〇〇	一・五 一・〇〇	一・五 一・〇〇	一・五 一・〇〇	一・〇 一・〇〇	一・〇 一・〇〇
同	同	同	同	同	同	同
一區	一區	一區	一區	一區	一區	一區
二區	二區	二區	二區	二區	二區	二區
一・三 一・〇〇	一・三 一・〇〇	一・三 一・〇〇	一・三 一・〇〇	一・三 一・〇〇	一・三 一・〇〇	一・三 一・〇〇
一・五 一・〇〇	一・五 一・〇〇	一・五 一・〇〇	一・五 一・〇〇	一・五 一・〇〇	一・五 一・〇〇	一・五 一・〇〇
同	同	同	同	同	同	同
一區	一區	一區	一區	一區	一區	一區
二區	二區	二區	二區	二區	二區	二區

内國船ノ取引ハ運航ヲ目的トスルモノニ關シテハ債權整理ニ依ルモノ多ク結局本年ノ取引ハ二十三



隻此ノ重量噸數約九萬五千噸ヲ算セルカ船價ハ低廉ノ域ヲ脱セス中ニハ解體値ニ近キモノモアリタリ而シテ解體ヲ目的トスルモノニ關シテハ内國船ハ船價比較的高唱ヘナリシト餘リニ老朽ニ過クルトノ爲商談流ルルモノ多ク成約ヲ見タルモノハ十三隻約四萬四千總噸ニシテ一總噸當リ十圓乃至十五圓見當ヲ示セリ

外國船ノ輸入ハ孰レモ古船ニ限ラレ其ノ最モ古キモノハ一八九一年建造ノ *Seang Poo* 號ニシテ又最モ新シキハ一九一七年建造ノ *British Fern* 及 *British Holly* ノ兩號ナリトス年初以來相次キテ取引成立シ實ニ五十五隻重量噸數三十五萬八千二百七十六噸此ノ買價ハ約四十萬磅ニ上リ從來ノ最高記録タル大正十二年ノ數字ヲ遙ニ凌駕シ未曾有ノ多數ニ達シタリ而シテ此ノ中運航用トシテ浚漉船及「バージ」計三隻ヲ舉クルニ止マリ他ハ悉ク解體船ナルハ注目ニ値スヘシ特ニ九月以降ハ英國金本位制停止ニ依ル磅貨ノ暴落ニ依リテ探算有利トナリ續々輸入セラレタルモ屑鐵相場暴落セル爲船價ハ高價ナリト稱スルコトヲ得ス金本位停止後ノ輸入ノミニテモ二十九隻重量噸數十八萬五千七百四十五噸ヲ算スルノ盛況ナリ

(一) 昭和六年ニ於ケル賣船價格累月比較表

月	大 型 船			中 型 船			小 型 船		
	新造船	中古船	古船	新造船	中古船	古船	新造船	中古船	古船
一	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
二	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
三	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
四	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
五	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
六	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
七	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
八	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
九	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇
十	九〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	三〇〇

第二章 本邦海運ノ概況

第四節 不定期船ノ狀況

二〇七

船名	噸	建造年	契約期	價	格	重量噸一噸當リ價格
白海丸	七九三	一九〇一	三	月	110,000	1,515
つる丸	四六〇	一九〇五	三	月	110,000	3,570
勝丸	六二五	一九一四	三	月	000	0,811
長野丸	六三九	一九一七	三	月	300,000	4,710
二速丸	一六〇	一九一三	三	月	25,000	1,568
大速丸	三七〇	一九一八	三	月	175,000	4,667
錫蘭丸	六四〇	一九〇三	三	月	90,000	1,398
天光丸	二,100	一九一八	四	月	90,000	4,286
南海丸	八,000	一九一七	四	月	115,000	1,438
千早丸	二,048	一九一八	四	月	70,000	3,418
北斗丸	一,158	一九一六	五	月	10,000	8,644
越後丸	二,665	一九一八	五	月	35,000	1,313
慶應丸	四,366	一九一七	六	月	46,000	1,073
瑞鳳丸	一,250	一九一八	六	月	35,000	2,800
神祇丸	二,250	一九一八	六	月	40,000	1,764
大洲丸	一,113	一九一三	七	月	15,000	1,368
福州丸	二,187	一九一四	七	月	110,000	1,635
新高丸	三,695	一九一四	七	月	110,000	1,635
總						

(二) 昭和六年ニ於ケル古船賣買價格表

船名	噸	建造年	契約期	價	格	重量噸一噸當リ價格
以智丸	一,350	一八八八	一	月	135,500	100
華恒丸	一,932	一八八七	一	月	110,000	10,554
東慶丸	二,271	一八九二	一	月	25,000	11,011
扇海丸	一,946	一九一七	一	月	75,000	3,854
印度丸	5,000	一九一七	一	月	58,500	1,170
海福丸	5,029	一九一七	一	月	150,000	2,971
因幡丸	7,500	一九一七	二	月	90,000	1,200
六厚丸	7,200	一九一五	二	月	100,000	1,389
袖浦丸	一,940	一九一五	三	月	10,000	1,031
備後丸	七九〇	一九一七	三	月	107,500	1,347
總						

第二章 本邦海運ノ概況

第四節 不定期船ノ狀況

二〇六

月	噸	噸	噸	噸	噸	噸
十一月	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
十二月	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
總						

船名	噸數	船種	總噸數千噸未滿	總噸數	總噸數千噸以上	合計
溫州丸	一四七	丸	一九〇	四	—	一九〇
基隆丸	二六五	丸	一八九	六	—	一八九
蘇州丸	二八四	丸	八九七	七	—	八九七
喜代丸	一九九	丸	八九六	七	—	八九六
上宮丸	一九七	丸	八七	—	—	八七
天鷗丸	三三〇	丸	九一七	八	—	九一七
瑞昭丸	三三一	丸	九一八	八	—	九一八
三萬丸	一八八	丸	九一八	八	—	九一八
伏木丸	一〇〇	丸	八八九	九	—	八八九
烏帽子丸(船骸)	三九八	丸	九〇一	九	—	九〇一
孟買丸	六八七	丸	九〇〇	九	—	九〇〇
白鳳丸	七八〇	丸	九〇〇	九	—	九〇〇
夕映丸	四九三	丸	九〇〇	九	—	九〇〇
吳山丸	四九三	丸	九〇〇	九	—	九〇〇
北斗丸(木船)	一八八	丸	九一八	八	—	九一八
平順丸	二二五	丸	九〇二	十	—	九〇二
合計			三三,〇〇〇	八,〇〇〇	—	三三,〇〇〇

(三) 船舶輸出表

(登録ヲ基礎トセル調査)

(四) 昭和六年ニ於ケル外國船購入表

(登録ヲ基礎トセル調査)

年	船型	總噸數千噸未滿		總噸數千噸以上		合計	
		隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
大正	十一年	一	三,七〇〇	二	四,五六〇	一	八,二六〇
同	十一年	一	一九五	—	—	一	一九五
同	十一年	—	—	—	—	—	—
同	十一年	—	—	—	—	—	—
昭和	元年	四	一,五五〇	—	—	四	一,五五〇
同	二年	七	一,九七〇	—	—	七	一,九七〇
同	三年	四	一,九七〇	—	—	四	一,九七〇
同	四年	一〇	三,三三三	三	七,九六二	一三	一一,三〇〇
同	五年	九	二,四三三	二	六,一七三	一一	八,六〇六
同	六年	一〇	三,三三三	三	七,九六二	一三	一一,三〇〇
合計		一〇	二七,九四〇	六	一七,四三六	一六	四五,三七六

第二章 本邦海運ノ概況 第四節 不定期船ノ狀況

五〇〇噸以上—一、〇〇〇噸未滿	二	一、五〇〇	—	—	—	二	一、五〇〇
一、〇〇〇噸以上—三、〇〇〇噸未滿	—	—	—	—	—	—	—
三、〇〇〇噸以上—五、〇〇〇噸未滿	—	—	—	—	—	—	—
五、〇〇〇噸以上—七、〇〇〇噸未滿	—	—	—	—	—	—	—
七、〇〇〇噸以上—九、〇〇〇噸未滿	—	—	—	—	—	—	—
九、〇〇〇噸以上	—	—	—	—	—	—	—
合 計	五	三、六	—	—	—	六	三、六

一一〇

備考 朝鮮臺灣ナシ

(四) 昭和六年ニ於ケル外國船購入表

船名	國籍	建造年	重量噸數	船價	一噸當價格
× Octopus	英國 渡洋船	一九〇四	八〇〇	—	—
× Gull	英國 巴爾吉	一九〇四	一、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇七、一四
× Heron	英國 巴爾吉	一九〇四	一、〇〇〇	—	—
Ben Vraekie	英國 巴爾吉	一九〇六	八、七八〇	八、五〇〇	一四、四
Tjikinie	和 國	一九〇七	八、〇五〇	五五、〇〇〇	六、七九
Ben Muedaji	英 國	一九〇二	九、〇九五	一〇、〇〇〇	一、二〇
總 計			三、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇七、一四

第二章 本邦海運ノ概況

第四節 不定期船ノ狀況

船名	國籍	建造年	重量噸數	船價	一噸當價格
Nam Seng	英 國	一九〇二	六、〇一一	六、〇〇〇	一九、一二
Tji bodas	和 國	一九〇六	六、四八〇	五五、〇〇〇	八、四九
Kangam	和 國	一九〇二	一〇、一四〇	一一、〇〇〇	一、〇八
Millton	和 國	一九〇八	九、〇七八	九、一〇〇	一、〇一
Bore Jis	英 國	一九〇一	五、九四四	六、〇〇〇	一、〇一
Nias	和 國	一九〇九	九、〇九〇	九、二〇〇	一、〇一
Phaema	英 國	一九〇三	六、五〇〇	一七、五〇〇	—
Phorus	英 國	一九〇〇	六、一六〇	—	—
Bithina	英 國	一九〇三	三、六二九	—	—
Sang Bae	英 國	一九〇一	五、八四九	七、〇〇〇	一、三二
Derbyshire	英 國	一九〇七	八、〇二五	一〇、〇〇〇	一、三五
Arabestan	英 國	一九〇三	七、二〇〇	八、五〇〇	一、一七
Sarvislan	英 國	一九〇九	八、五〇〇	一二、五〇〇	一、四七
Macedonia	英 國	一九〇四	七、五八二	三一、〇〇〇	四、二二
Tjitaroom	和 國	一九〇〇	八、六〇〇	八、〇〇〇	一、八七
St Albans	英 國	一九〇〇	四、五〇〇	七、〇〇〇	一、五三
Colindale	英 國	一九〇一	六、四八五	八、三〇〇	一、二八
British Fern	英 國	一九一七	五、八三一	八、〇〇〇	一、三七
總 計			三、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇七、一四

一一一

第二章 本邦海運ノ概況 第四節 不定期船ノ狀況

船名	國	噸	片
Khiva	英	一〇、九四〇	一・七
Helum	英	七、二六二	一・八
磅 下落前計	英	一七二、五三一	一・〇
Perlak	英	二、五〇〇	一・六
Dolphin Shell	英	二、九六〇	一・三
Khyber	英	一一、一五〇	九・二
Purpara	英	六、七八〇	一・七
British Holly	英	五、一六二	七・〇
Oufa	英	一一、九〇〇	一・一
Kalyau	英	一一、一五〇	九・二
Roserie	英	八、二〇〇	一・六
Argonanta	英	七、五八〇	一・六
Prism	英	六、二〇〇	〇・二
Abberck	英	一一、二〇〇	八、〇〇〇
Khodoung	英	一、四六〇	八、〇〇〇
Verite	和	三、〇二五	一・〇
Palemhang	和	二、六三九	〇・二
Utrecht	和	一、四五〇	四・三
總	總	一、四五〇	一・四

備考

(1)×印ハ渡濶ヲ目的トスル輸入船トス

第二章 本邦海運ノ概況 第四節 不定期船ノ狀況

船名	國	噸	片
Valenus	和	二、九四〇	一・八
Argonia	獨逸	六、四八〇	六、〇〇〇
Physa	英	六、一五〇	五、〇五〇
Jason	英	九、四〇〇	一〇、〇〇〇
Anamba	英	二、一七〇	二、〇〇〇
Anglekerk	和	一一、九〇〇	一一、八〇〇
Scula Shell	英	四、九〇〇	四、五〇〇
Pedro Gomes	葡	五、四七〇	八、〇〇〇
Kashgar	英	一一、五〇〇	一六、二五〇
Gascayne	英	三、二〇〇	六、二〇〇
Eburra	英	七、六四〇	六、〇〇〇
Limax	英	六、〇四〇	五、八〇〇
Salanta	英	七、二二五	二六、〇〇〇
Tjikampok	蘭	六、三五四	八、五〇〇
磅 下落後合計	總	一八五、七四五	一・六
總計	總	三五八、二七六	九・〇

(二)輸入船ハ全部(淺瀬船及「バージ」ヲ除キ)解撤船トス

### 第五節 造船狀況

歐洲大戰以來久シク不況ニ沈淪シタル我造船界ヲシテ一時的トハ言ヘ小康ヲ得セシメタル遠洋航路補助法ニ依ル受命船淺間丸外十一隻ノ優秀新造船モ客年十一月平安丸ノ竣工ヲ以テ一段落ヲ告ケ一方世界的經濟界ノ不況ハ本年ニ至リテモ何等ノ光明ヲ示サス從テ本年中ニ於ケル本邦造船界ハ不況ノ常軌上ニ終始シ客年ニ比シ著シク不振ヲ極メ本邦造船能力ノ一小部分ヲ消化シ得タルニ過キス如斯環境裡ニ於テハ必然的ニ經濟的優秀船建造ノ機運ヲ促進シ本年中ノ新造船ニ付テ見ルモ之ノ熱意愈々増進サレタルカ如シ即チ推進機關トシテ「デーゼル」機關ノ採用ハ從來舉ケ來リシ運航經濟上有利ナル實績ト之カ本邦ニ於ケル製造技術益々長足ノ進歩ヲ遂ケ最早輸入ノ要ナキニ至リタルト相俟テ遞増ノ趨勢ニアリテ本年中ノ新造船船ノ大部分ヲ占メ又船體構造上ニ於テモ船型ノ改善、電氣鎔接ノ利用或ハ操舵上ノ改良等隨所ニ其ノ熱意ヲ見ルヲ得ヘシ本年中ニ於ケル總噸數百噸以上ノ進水船舶(汽船、帆船)ノ隻數及總噸數ヲ月別ニ示サハ左表ノ如シ

月次	總噸數一、〇〇〇噸以上		總噸數一、〇〇〇噸未満		合計	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數

月次	總噸數一、〇〇〇噸以上	總噸數一、〇〇〇噸未満	合計
一	1,200	1	1,200
二	7,450	2	7,452
三	11,450	1	11,451
四	18,550	1	18,551
五	10,950	3	10,953
六	4,150	5	4,155
七	7,350	5	7,355
八	7,350	5	7,355
九	7,350	5	7,355
十	7,350	6	7,356
合計	77,300	29	77,329
平均一隻當總噸數	1,171	499	870

即本年ニ於テハ四十九隻八萬四千四噸ニシテ之ヲ前年ノ進水高ニ比スレハ隻數ニ於テ十一隻、噸數ニ於テ七萬二千二十七噸ノ減少ヲ見タリ左表ハ大正七、八年ノ好況時代ヨリ今日ニ至ル我造船界浮沈ノ狀況ヲ最良ク物語ルモノト云フヲ得ヘシ

年次	昭和四年	昭和五年	昭和六年
大正七年	七	四〇六	六四四、一七二
大正八年	八	三四五	六八二、〇七八
大正九年	九	一九八	四六〇、一八〇
昭和元年	一	四二	二一七、七二〇
昭和二年	二	七一	七三、二四三
昭和三年	三	五六	七四、二八四
昭和四年	四	三九	七一、八〇二
昭和五年	五	三三	五五、〇二六
昭和六年	六	二七	五二、三六二
昭和七年	七	三一	五二、五七五
昭和八年	八	四八	一一、九七七
昭和九年	九	六三	一六四、六二二
昭和十年	十	四九	一四八、三八二
昭和十一年	十一	三二	八一、七七二
昭和十二年	十二	三二	
昭和十三年	十三	三二	
昭和十四年	十四	三二	
昭和十五年	十五	三二	
昭和十六年	十六	三二	
昭和十七年	十七	三二	
昭和十八年	十八	三二	
昭和十九年	十九	三二	
昭和二十年	二十	三二	
昭和二十一年	二十一	三二	
昭和二十二年	二十二	三二	
昭和二十三年	二十三	三二	
昭和二十四年	二十四	三二	
昭和二十五年	二十五	三二	
昭和二十六年	二十六	三二	
昭和二十七年	二十七	三二	
昭和二十八年	二十八	三二	
昭和二十九年	二十九	三二	
昭和三十年	三十	三二	
昭和三十一年	三十一	三二	
昭和三十二年	三十二	三二	
昭和三十三年	三十三	三二	
昭和三十四年	三十四	三二	
昭和三十五年	三十五	三二	
昭和三十六年	三十六	三二	
昭和三十七年	三十七	三二	
昭和三十八年	三十八	三二	
昭和三十九年	三十九	三二	
昭和四十年	四十	三二	
昭和四十一年	四十一	三二	
昭和四十二年	四十二	三二	
昭和四十三年	四十三	三二	
昭和四十四年	四十四	三二	
昭和四十五年	四十五	三二	
昭和四十六年	四十六	三二	
昭和四十七年	四十七	三二	
昭和四十八年	四十八	三二	
昭和四十九年	四十九	三二	
昭和五十年	五十	三二	
昭和五十一年	五十一	三二	
昭和五十二年	五十二	三二	
昭和五十三年	五十三	三二	
昭和五十四年	五十四	三二	
昭和五十五年	五十五	三二	
昭和五十六年	五十六	三二	
昭和五十七年	五十七	三二	
昭和五十八年	五十八	三二	
昭和五十九年	五十九	三二	
昭和六十年	六十	三二	
昭和六十一年	六十一	三二	
昭和六十二年	六十二	三二	
昭和六十三年	六十三	三二	
昭和六十四年	六十四	三二	
昭和六十五年	六十五	三二	
昭和六十六年	六十六	三二	
昭和六十七年	六十七	三二	
昭和六十八年	六十八	三二	
昭和六十九年	六十九	三二	
昭和七十年	七十	三二	
昭和七十一年	七十一	三二	
昭和七十二年	七十二	三二	
昭和七十三年	七十三	三二	
昭和七十四年	七十四	三二	
昭和七十五年	七十五	三二	
昭和七十六年	七十六	三二	
昭和七十七年	七十七	三二	
昭和七十八年	七十八	三二	
昭和七十九年	七十九	三二	
昭和八十年	八十	三二	
昭和八十一年	八十一	三二	
昭和八十二年	八十二	三二	
昭和八十三年	八十三	三二	
昭和八十四年	八十四	三二	
昭和八十五年	八十五	三二	
昭和八十六年	八十六	三二	
昭和八十七年	八十七	三二	
昭和八十八年	八十八	三二	
昭和八十九年	八十九	三二	
昭和九十年	九十	三二	
昭和九十一年	九十一	三二	
昭和九十二年	九十二	三二	
昭和九十三年	九十三	三二	
昭和九十四年	九十四	三二	
昭和九十五年	九十五	三二	
昭和九十六年	九十六	三二	
昭和九十七年	九十七	三二	
昭和九十八年	九十八	三二	
昭和九十九年	九十九	三二	
昭和百年	百	三二	

本邦ニ於テハ從來一隻ノ「ディーゼル」機關船ヲモ有セサリシカ最近數年間ハ「ディーゼル」機關

船ヲ以テ新造船ノ大部分ヲ占ムル有様トナリ從テ「タービン」機關船往復動機關船ノ建造寥々タル有様ナリ

昭和三年以降ニ於ケル總噸數千噸以上ノ進水船ヲ機關別ニ依リ示セハ左表ノ如シ

機關別總噸數千噸以上ノ進水船舶累年表

	昭和四年		昭和五年		昭和六年	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
タービン機關船	一	一	二	六四七五	一	六、一〇〇
ディーゼル機關船	一八	二、九二三	一四	二、五八六〇	一四	七、一一〇
往復動機關船	九	三五、六六	五	一八、三六	一	一
計	二七	一、五四八三	二二	一、四〇六二	一五	七、三、一〇

尙本年中ニ進水シタル船舶中總噸數千噸以上ノモノヲ船級別、船種別、船型別、速力別ニ示セハ夫々左ノ如シ

(一) 船級別

		計	級	級	級		
			三	二	一		
			級	級	級		
			船	船	船		
隻	數	一五			一五		
總	噸數	七七、三一〇			七七、三一〇		

(二) 船種別

		計				
			油	貨	貨	
			槽	客	物	
			船	船	船	
隻	數	一三	一	一	一五	
總	噸數	一九、三六〇	六、二〇〇	五一、七五〇	七七、三一〇	

(三) 船型別

		隻 <th>數 <th>總 <th>噸數 </th></th></th>	數 <th>總 <th>噸數 </th></th>	總 <th>噸數 </th>	噸數

		計						
			一、〇〇〇噸以上	二、〇〇〇噸以上	三、〇〇〇噸以上	四、〇〇〇噸以上	五、〇〇〇噸以上	
隻	數	一五	七	三	四		一	
總	噸數	七七、三一〇	五〇、四〇〇	一二、八五〇	一三、〇〇〇			一、〇六〇

(四) 速力別

		隻 <th>數 <th>總 <th>噸數 </th></th></th>	數 <th>總 <th>噸數 </th></th>	總 <th>噸數 </th>	噸數
十節以上十一節未滿		二		八、七〇〇	
十一節以上十二節未滿		四		一一、六一〇	
十二節以上十三節未滿		一		三、三〇〇	
十三節以上十四節未滿		一		三、三〇〇	
十四節以上十五節未滿		三		二一、二〇〇	
十五節以上十六節未滿		三		二三、〇〇〇	
十六節以上		一		六、二〇〇	
計		一五		七七、三一〇	



以上ハ本年中ニ於ケル進水船舶ノ狀況ヲ示シタルカ總噸數百噸以上ノモノニ付工事中ノモノ並竣工セルモノヲ各月別ニ示セハ左表ノ如シ

月次	工事中		竣工	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數
一月	二三	七八、七二五	四	一二、一二四
二月	一九	六二、四四五	七	一四、六〇五
三月	一四	五九、八七〇	二	八、一五四
四月	一七	六三、三一九	二	四、五五六
五月	一九	五二、一八〇	三	一六、二八三
六月	二〇	四六、四七六	二	六、四三四
七月	一八	四〇、二三六	三	六、三六〇
八月	一七	三一、二一一	四	九、九〇二
九月	二二	四四、一九三	六	五、七三四
十月	二五	四三、七五五	四	六、五八七
十一月	二九	五三、七五九	四	六、二二三
十二月	二九	五三、五六四	八	一二、八八〇
合計	一	一	五一	一〇四、二四二

前年ニ於ケル竣工船舶合計

一

一

六一

二〇八、〇〇五

近年船舶ノ新造不振ノ爲各造船所トモ船舶修繕ニ相當力ヲ竭シ居レルカ今最近三ケ年間ニ於ケル修繕ノ隻數及總噸數ヲ示セバ左ノ如シ

上 半 期	下 半 期	昭和四年		昭和五年		昭和六年	
		隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
二、一三三	二、七〇〇	六、一〇〇、八七七	八、四三六、八八四	二、五四三	二、五四三	二、四七七	六、一〇〇、五〇六
四、八	二、七〇	二、三三八、〇七七	六、三八八、四三五	六、三八八、四三五	二、四七七	六、一〇〇、五〇六	
計							

尙本邦ニ於ケル造船事業ノ規模ノ消長ヲ示サムカ爲戰前及戰時中ノ好況時タル大正七年及本年ノ狀況ヲ對照表示セハ次ノ如シ

造船事業比較表 (但シ總噸數一千噸以上ノ船舶ヲ建造シ得ル造船所)

種 類	大正二年末現在	大正七年末現在	昭和六年末現在
造船業者數	五	五	一九
(内三八木船造船所)			

第二章 本邦海運ノ概況		第五節 造船狀況	
資本金額	約	1,550,000円	1,350,000円
拂込資本金額	約	2,150,000	1,911,100
社債(借入金額ヲ含マス)	約	60,000	2,300,000
造船工場數	六	(内一八木船造船所) 五	三
一千噸以上ノ造船臺數	七	(内二ハ木船用) 一	七
一千噸以上ノ進水船舶數	三、四六噸(大正二年分)	五、八七六噸(大正七年分)	七、三三〇
職工數	三六一七人	九、五七七人	二、八五二三人

11111

更ニ本邦新造貨物船ノ平均價格ヲ見ルニ左表ノ如クニシテ客年ハ最低價格ヲ示セリ

本邦新造貨物船平均價格表(三聯成汽機ヲ有スル普通速力ノモノ)

年及期別	總噸數	噸當價格	重量噸	噸當價格
大正三年	約	一六〇円	約	一一〇円
同四年	同	一八〇	同	一二〇
同五年上	同	二六〇	同	一七〇
同五年下	同	三六〇	同	二四〇
同六年上	同	六〇〇	同	四〇〇
同六年下	同	一、〇五〇	同	七四〇

年及期別	大小型	噸數	噸當價格	重量噸	噸當價格
大正七年上	大小型	同	一一、〇二五	同	八七〇〇円
同七年下	大小型	同	一一、〇二五	同	八七一〇〇円
同八年	大小型	同	五、四三五	同	三、三五〇〇
同九年上	大小型	同	五、四〇五	同	三、三五〇〇
同九年下	大小型	同	三、二〇四	同	二、一六〇〇
同十年上	大小型	同	一一、八三〇	同	一一、九〇〇
同十年下	大小型	同	一一、九五〇	同	一一、三〇〇
同十一年上	大小型	同	一一、六〇〇	同	一一、三〇〇
同十一年下	大小型	同	一一、六〇〇	同	一一、三〇〇
同十二年上	大小型	同	一一、六八〇	同	一一、〇〇〇
同十二年下	大小型	同	一一、七九〇	同	一一、〇〇五

第二章 本邦海運ノ概況

第五節 造船狀況

11133

年次	平均價格	年次	平均價格
大正三年	約九〇円	同	同
同四年	一三〇	同	同
同五年	二五〇	同	同
同六年	四四〇	同	同
同六年(上半年)	四七〇	同	同
同六年(下半年)	四〇〇	同	同
昭和七年	同	同	同
昭和八年	同	同	同
昭和八年(上半年)	同	同	同
昭和八年(下半年)	同	同	同
昭和九年	同	同	同
昭和九年(上半年)	同	同	同
昭和九年(下半年)	同	同	同

造船用鋼材(鋼材及型钢)平均價格表

次ニ造船鐵鋼材ノ價格ハ左表ノ如ク客年ニ於テ最低價格ヲ示セリ

備考 △印ヲ附シタルハ「ディーゼル」貨物船ナリ

年次	平均價格	年次	平均價格
同五年(上半年)	同	同	同
同五年(下半年)	同	同	同
同六年(上半年)	同	同	同
同六年(下半年)	同	同	同
昭和七年	同	昭和七年	同
昭和八年	同	昭和八年	同
昭和八年(上半年)	同	昭和八年(上半年)	同
昭和八年(下半年)	同	昭和八年(下半年)	同
昭和九年	同	昭和九年	同
昭和九年(上半年)	同	昭和九年(上半年)	同
昭和九年(下半年)	同	昭和九年(下半年)	同

年次	平均價格	年次	平均價格
同十三年	同	同	同
同十四年	同	同	同
同十四年(上半年)	同	同十四年(上半年)	同
同十四年(下半年)	同	同十四年(下半年)	同
昭和十五年	同	昭和十五年	同
昭和十五年(上半年)	同	昭和十五年(上半年)	同
昭和十五年(下半年)	同	昭和十五年(下半年)	同
昭和十六年	同	昭和十六年	同
昭和十六年(上半年)	同	昭和十六年(上半年)	同
昭和十六年(下半年)	同	昭和十六年(下半年)	同
昭和十七年	同	昭和十七年	同
昭和十七年(上半年)	同	昭和十七年(上半年)	同
昭和十七年(下半年)	同	昭和十七年(下半年)	同
昭和十八年	同	昭和十八年	同
昭和十八年(上半年)	同	昭和十八年(上半年)	同
昭和十八年(下半年)	同	昭和十八年(下半年)	同
昭和十九年	同	昭和十九年	同
昭和十九年(上半年)	同	昭和十九年(上半年)	同
昭和十九年(下半年)	同	昭和十九年(下半年)	同
昭和二十年	同	昭和二十年	同
昭和二十年(上半年)	同	昭和二十年(上半年)	同
昭和二十年(下半年)	同	昭和二十年(下半年)	同

同十年 下半年	同十一年 上半年	同十二年 下半年	同十三年 上半年	同十四年 下半年	同十五年 上半年
同	同	同	同	同	同
一三五〇	一〇〇〇	一一二五	一一二五	一一二五	一一二五
同	同	同	同	同	同
二年 下半年	三年 下半年	四年 下半年	五年 下半年	六年 下半年	同
(口大)	(口大)	(口大)	(口大)	(口大)	(口大)
五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇
同	同	同	同	同	同
一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六

終リニ歐洲大戰後ニ於ケル造船業保護助長ノ爲大正十年六月關稅定率法ノ改正ニ依リ船舶ノ建造又ハ修繕用ニ供スル鐵鋼材、艤裝品、艤裝品部分品及機關又ハ機關部分品ニ對シ輸入稅ヲ免除シ更ニ同年七月以降製鐵獎勵法ノ改正ニ依リ我國ニ於テ製造シタル鋼材ニシテ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合其ノ鋼材ノ製造者ニ對シテ一定ノ獎勵金ヲ交付スルコトトシ仍テ以テ我造船業ノ經營ニ伴フ困難ヲ緩和シタルカ其最近ニ於ケル成績ハ左表ノ如シ

船舶建造及修繕用物品承認數量表 (噸ハ一〇〇トス)

輸入稅ノ免除ヲ受ケタル鐵鋼材	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年
同上艤裝品機關部分品並認許物品	三九三九噸	二三八四九噸	五五、六三噸	六、七五噸	四九、五六噸	二九、二〇噸	八六、〇〇噸
獎勵金ノ交付ヲ受ケタル鐵鋼材	六五二、四四噸	八、八六噸	九、五七噸	二七、八五噸	二〇、四三噸	三、七七噸	三、八七噸

第六節 海員ノ狀況

(一) 船員需要供給ノ概況

打續ク海運界ノ不況ハ本年ニ到リ遂ニ繫船噸數五十五萬噸ナル大戰以後ノ新記録ヲ現出シ從テ船員ノ失業ハ益々深刻化ノ一路ヲ辿レリ今試ミニ本年ニ於ケル船員需要供給ノ狀態ヲ看ルニ求人申込總數(昨年未濟數ヲ含ム)ハ一萬九千二百十五人ニシテ之ニ對スル求職申込總數ハ三萬四千八百四十八人ニシテ一萬五千六百三十三人(約四割五分)ノ求職申込超過ナリ

(一) 無料船員職業紹介統計表 (昭和六年)

未済數	處理數	申込數	甲 板 部		機 關 部		其 他		合 計	
			高級	普通	高級	普通	高級	普通	高級	普通
求職人	失効求人	求職人	一、四四五	一、四六五	八六五	一、七四五	二六七	九七〇	二、七五七	三、一七〇
求人	就職者數	求人	一、一七九	二、三三七	一、〇一四	二、三三四	三、四六	一、五二一	二、七九二	六、三三三
前年未済	本年受	前年未済	一、〇	五五	一〇	九四	三	五三	三三	一、〇〇
本年受	前年未済	本年受	二、五五五	六、七七七	一、九五五	九、〇〇八	五、七七	五、六六四	一、八〇七	三、八八〇
前年未済	本年受	前年未済	七、一〇	六、三三三	六、八八	六、〇七	一、九七	四、〇一九	一、五五五	一、七〇七
本年受	前年未済	本年受	三、五五五	八、七八八	五、八二	一、四七	三、〇	七、七七	一、八〇三	三、四四五
前年未済	本年受	前年未済	二、七	二、八	六、三	六、七	一、九	三、九	一、五	一、六
本年受	前年未済	本年受	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六
前年未済	本年受	前年未済	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六
本年受	前年未済	本年受	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六

(二) 有料船員職業紹介統計表 (昭和六年)

申込數	甲 板 部		機 關 部		其 他		合 計	
	高級	普通	高級	普通	高級	普通	高級	普通
求人	一、四四五	一、四六五	八六五	一、七四五	二六七	九七〇	二、七五七	三、一七〇
前年未済	一、〇	五五	一〇	九四	三	五三	三三	一、〇〇
本年受	二、五五五	六、七七七	一、九五五	九、〇〇八	五、七七	五、六六四	一、八〇七	三、八八〇
前年未済	七、一〇	六、三三三	六、八八	六、〇七	一、九七	四、〇一九	一、五五五	一、七〇七
本年受	三、五五五	八、七八八	五、八二	一、四七	三、〇	七、七七	一、八〇三	三、四四五
前年未済	二、七	二、八	六、三	六、七	一、九	三、九	一、五	一、六
本年受	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六
前年未済	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六
本年受	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六

(三) 船員手帖受有者數

未済數	處理數	求職	甲 板 部		機 關 部		其 他		合 計	
			高級	普通	高級	普通	高級	普通	高級	普通
求職人	失効求人	求職人	一、四四五	一、四六五	八六五	一、七四五	二六七	九七〇	二、七五七	三、一七〇
求人	就職者數	求人	一、一七九	二、三三七	一、〇一四	二、三三四	三、四六	一、五二一	二、七九二	六、三三三
前年未済	本年受	前年未済	一、〇	五五	一〇	九四	三	五三	三三	一、〇〇
本年受	前年未済	本年受	二、五五五	六、七七七	一、九五五	九、〇〇八	五、七七	五、六六四	一、八〇七	三、八八〇
前年未済	本年受	前年未済	七、一〇	六、三三三	六、八八	六、〇七	一、九七	四、〇一九	一、五五五	一、七〇七
本年受	前年未済	本年受	三、五五五	八、七八八	五、八二	一、四七	三、〇	七、七七	一、八〇三	三、四四五
前年未済	本年受	前年未済	二、七	二、八	六、三	六、七	一、九	三、九	一、五	一、六
本年受	前年未済	本年受	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六
前年未済	本年受	前年未済	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六
本年受	前年未済	本年受	二、七	二、八	九	六	一	三	一、五	一、六

(四) 海技免狀受有者數

新舊手帖	年 別	船員手帖受有者數		船員手帖新交付者數	
		船員手帖受有者數	船員手帖新交付者數	船員手帖受有者數	船員手帖新交付者數
新舊手帖	昭和二年末	二六、二七〇	一八〇一八	一七、四三九	一七、四九一
	昭和三年末	一七、四三九	一七、四九一	一七、四三九	一七、四九一
	昭和四年末	一九、九六二	一九、一六七	一九、九六二	一九、一六七
	昭和五年末	二七、七四〇	二五、一六六	二七、七四〇	二五、一六六
	昭和六年末	三七、三六六	三三、四八〇	三七、三六六	三三、四八〇
	昭和六年末	四九、八八九	三四、九	四九、八八九	三四、九

大正十二年末 約 五〇、二三八 (内 國 人)

四九、八八九

昭 和 三 年 末	昭 和 四 年 末	昭 和 五 年 末	昭 和 六 年 末
六八、〇五〇 (内國 人)	七一、七六二 (内國 人)	七六、九一九 (内國 人)	八五、九五三 (内國 人)
六七、九一八 一三二	七一、六三〇 一三二	七六、七八七 一三二	八五、八二一 一三二

(五) 適任水夫證書受有者數 (昭和六年末現在)

甲	乙	合
種	種	計
四、五〇三	六七三	五、一七六

備考 適任水夫證書交付規則ハ大正十五年三月一日ヨリ施行セラレタリ

(六) 管海官廳ノ取扱ヒタル船員雇入雇止公認數

昭 和 二 年	年 別	雇 入	雇 止	雇 入 又 ハ 雇 止 超 過
一、二八、〇五三		一、二五、七四〇	雇入超過	二、三、一三三

昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	昭 和 六 年
一三〇、三〇七	一二二、一七六	一一〇、九二四	一〇三、二八一
同	同	雇止超過	雇入超過
二、三、三五	四、七、三三	二、一、八七	四六

(七) 船舶乗組員數職務別表 (昭和六年十二月末日現在)

甲 板		機 關		事 務	
職 務 別	乘 組 員 數	職 務 別	乘 組 員 數	職 務 別	乘 組 員 數
一 等 運 轉 士	一、二八人	一 等 機 關 長	一、七五人	事 務 長	三、五四人
二 等 運 轉 士	一、二九	二 等 機 關 士	一、〇三	事 務 員	五、七六
三 等 運 轉 士	八、三五	三 等 機 關 士	九、七	事 務 員 (事務員見習貨物掛荷物方)	三、七
四 等 運 轉 士	七、七	四 等 機 關 士	三、九	醫 生	一、三
航 海 實 習 生	四、〇	火 夫 實 習 長	三、七	無 線 技 術 士	九、八
水 夫 長	一、四九	火 夫 實 習 長	三、七	看 護 人 見 習	七、七
大 工 (助 手)	五、八	火 夫 實 習 長	三、七	司 厨 長 (賄 長)	七、〇

職 務 別	一 等 運 轉 士	二 等 運 轉 士	運 轉 士	航 海 實 習 生	水 夫 長	大 工 (助 手)	舵 夫	水 夫	水 夫	漁 夫	漁 長	漁 夫
乘組員數	27	33	210	207	21	21	21	21	21	21	21	21
職 務 別	機 關 長	機 關 士	機 關 士	機 關 士	機 關 士	機 關 士	機 關 士	火 夫	火 夫	火 夫	火 夫	石 炭 夫
乘組員別	27	10	10	20	20	21	21	21	21	21	21	21
職 務 別	事 務 長	事 務 員	事 務 員	事 務 員	事 務 員	事 務 員	事 務 員	事 務 員	事 務 員	事 務 員	事 務 員	事 務 員
乘組員數	20	20	20	20	20	21	21	21	21	21	21	21

第二章 本邦海運ノ概況

第六節 海員ノ狀況

二二三

(乙) 帆 船

計	一六六六
計	一九六七
計	二二二〇

職 務 別	差 船	油 機	機 關 倉 庫	副 汽 罐 番 (小 汽)	火 夫	火 夫	石 炭 夫	石 炭 夫	電 氣 技 士	電 機 工	旋 盤 工	冷 藏 機 關 士	モ ー タ ー マ ン	掃 除 夫	掃 除 夫	給 付 夫	其 他
乘組員數	42	33	33	37	63	70	23	23	33	21	21	21	21	19	19	4	7
職 務 別	司 理 人	料 理 人	料 理 人	炊 夫	炊 夫	炊 夫	ベ ー カ ー 見	ベ ー カ ー 見	仕 務 員 (運 搬 夫 小 使)	譯 者	手 工	手 工	手 工	手 工	手 工	手 工	手 工
乘組員別	37	33	33	37	63	70	23	23	33	21	21	21	21	19	19	4	7
職 務 別	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)	厨 師 (貽 倉 方)
乘組員數	46	33	33	37	63	70	23	23	33	21	21	21	21	19	19	4	7

第二章 本邦海運ノ概況 第六節 海員ノ狀況

二二三

其	計	他	計	他	計
	一六五九四	九	六八三	一	二七〇

備考

(イ) 本表ハ船員法適用船乗組員ニシテ雇入公認ヲ受ケタル者ニ限リ昭和六年十二月末日現在乗船者ノ船員原簿ニ依リ作成セルモノナルヲ以テ當日下船者ヲ包含セス

(ロ) 本表中船長ノ員數ヲ掲ケサルハ船長中就職ノ認證ヲ受ケサルモノアルニ因ル

(ハ) 本表ノ外船長及雇傭契約ニ依ラスシテ乗船中ノ海員ハ約二萬五千人アル見込ナリ

(二) 海員職業紹介施設

海事協同會ヲ筆頭トシ日本海員接濟會、長崎帆船組合ノ經營ニ係ル船員職業紹介法ニ依リ許可セラ  
ルル無料船員職業紹介所數ハ本年末現在十七個所ニシテ昨年末ト同様ナルカ右ノ中十五個所ハ海事協  
同會ニ屬シ日本海員接濟會及長崎帆船組合ハ敦レモ一個所ヲ有スルニ過キス

又船員職業紹介法ニ依リ許可セラレタル有料職業紹介者數ハ本年末現在十二名ニシテ昨年末ノ十五  
名ニ比シ三名ヲ減シタリ

(一) 無料船員職業紹介所數 (昭和六年末現在)

海 事 協 同 會	紹 介 所 數	一 五
日 本 海 員 接 濟 會	紹 介 所 數	一
長 崎 帆 船 組 合	紹 介 所 數	一
合 計	紹 介 所 數	一 七

備考 海事協同會ニハ右ノ外兵庫及川口(大阪)ニ二派出所アリ

(二) 有料船員職業紹介業者數 (昭和六年末現在)

東 京 遞 信 局 管 内	地 方 別	營 業 者 數	二
名 古 屋 遞 信 局 管 内		營 業 者 數	一
廣 島 遞 信 局 管 内		營 業 者 數	八
熊 本 遞 信 局 管 内		營 業 者 數	一
合 計		營 業 者 數	一 二

(三) 海員團體



本年末現在當局ノ調査ニ據レハ我邦ニ於ケル主要海員團體ハ左表ニ示スカ如ク十七團體ニシテ其ノ會員數ハ約十四萬五千五百二十名ナリ

主要海員團體調 (昭和六年十二月末現在)

名	稱	本部所在地	設立年月日	會員數	主幹者氏名
日本海員組合	神	戸	大正一〇、五	九、七〇〇	濱田國太郎
海員協會	神	戸	明治四〇、三	二、六〇〇	尾崎麟太郎
商船同志會	神	戸	大正七、一〇	二、一〇〇	宮本官治
日本港灣從業員組合聯盟	神	戸	昭和五、五	九、九〇〇	濱田國太郎
郵船屬員協會	神	戸	大正九、一〇	八、四〇〇	角田伊之助
船員共濟會	大	阪	大正一〇、五	六、一〇〇	宮田武太郎
商船屬員俱樂部	神	戸	大正一三、四	二、六〇〇	龜石信之助
漁船機關士協會	東	京	大正一三、七	二、三〇〇	中村信一
日本海友俱樂部	神	戸	昭和五、八	二、一〇〇	新免正夫
商船內航屬員俱樂部	大	阪	昭和三、三	一、三〇〇	山西伊勢吉
三井物産海員救濟會	神	戸	大正二、九	一、三〇〇	古川虎三郎

名	稱	本部所在地	設立年月日	會員數	主幹者氏名
郵四機關士協會	神	戸	大正一二、一一	九〇〇	藤村重道
青年同窓會	神	戸	大正八、二	七〇〇	渡邊知直
十一年會	神	戸	昭和五、五	七〇〇	池田友助
商船青年同窓會	神	戸	大正四、四	五〇〇	豫備中ノ者交互
郵船同窓會	神	戸	明治四〇、一	四〇〇	川田常八
商船機關士會	神	戸	昭和二、一〇	三〇〇	福井一八

(四) 船員宿泊所

我邦ニ於ケル團體經營ノ船員宿泊所ハ本年末現在四十箇所此ノ收容能力二千二百二十三人ニ達シ昨年未ノ三十八箇所收容能力二千六十人ニ比シ二箇所收容能力六十三人ヲ増加シタリ右四十箇所ノ中二十三箇所ハ無料宿泊所ニシテ其ノ收容能力千五百四十四人ニ達ス  
 日本海員組合ハ十箇所ヲ經營シ横濱市ニ於ケル震災記念宿泊所ヲ除ケハ他ハ總テ無料宿泊所ナルニ反シ日本海員救濟會ニ屬スル九箇所ノ宿泊所ハ悉ク有料ナリ  
 左表ハ各宿泊所ノ名稱、所在地、收容能力、宿泊料及食料ヲ示セルモノナリ

船員宿泊所調 (昭和六年十二月末現在)

名 稱	所 在 地	收 容 能 力	宿 泊 料	食 料
日本海員救濟會東京海員宿泊所	東京市	三〇人	普通海員 二十錢 高級會員 廿五錢 特別室 八疊 八十錢	賄ナシ 晝、夕、二十錢
日本海員組合東京宿泊所	東京市	二八	無料	賄ナシ 晝、夕、二十錢
社団法人海員協會東京宿泊所	東京市	二三	無料	賄ナシ
橫濱海員ホムム	橫濱市	九八	本館 普通室料 二十錢(一人) 家族室 五十錢(一人) 洋室 五十錢(一人) 別館 一室二人迄 一圓二角 洋室 一人一室 一圓五角	晝、夕、二十錢
郵船事務部屬員養成所宿泊所	橫濱市	七五	無料	晝、夕、二十五錢
橫濱郵船屬員宿泊所	橫濱市	八四	無料	晝、夕、十三錢
日本海員組合花咲町宿泊所	橫濱市	六七	無料	晝、夕、十三錢
日本海員組合震災記念宿泊所	橫濱市	二〇	五十錢(一室)	晝、夕、三十錢
新潟海員ホムム	新潟市	三四	無料(洗濯料トシテ十錢)	賄ナシ 自炊
日本海員組合名古屋市郡宿泊所	名古屋市	六〇	無料	晝、夕、十五錢
日本海員救濟會名古屋海員宿泊所	名古屋市	五〇	普通室 二十錢 家族室 一圓二十錢	晝、夕、十五錢

名 稱	所 在 地	收 容 能 力	宿 泊 料	食 料
日本海員救濟會四日市海員宿泊所	四日市市	四一	普通室(普通海員) 三十錢 特別室 五十錢	晝、夕、二十五錢
敦賀海員ホムム	福井縣敦賀町	二〇	和室 一室 一圓五十錢 洋室 二人用一人 二十五錢 洋室 四人用一人 二十五錢	並、晝、夕、十一錢 上、晝、夕、十三錢 晝、夕、十五錢
大阪市立海員ホムム	大阪市	一九九	十錢	晝、夕、十五錢
日本海員救濟會大阪海員宿泊所	大阪市	五六	十錢	一日三食 五十錢 一日三食 七十五錢
大阪商船會社船員共濟會大阪宿泊所	大阪市	二〇	無料	所外自辦
神戶海員ホムム	神戶市	一二〇	無料	晝、夕、十三錢
大阪商船會社船員共濟會神戶支部	神戶市	七三	無料	晝、夕、十三錢
神戶郵船屬員俱樂部	神戶市	七〇	無料	晝、夕、十五錢
日本海員救濟會神戶海員宿泊所	神戶市	五六	十錢	晝、夕、十五錢
日本海員組合船員無料宿泊所	神戶市	六〇	無料	晝、夕、十五錢
鳥羽商船學校實習生卒業生俱樂部	神戶市	一六	二十五錢 實習生ハ無料	晝、夕、十五錢

商船屬員俱樂部	神戸市	一〇	無料	賄ナシ
株式會社播摩造船所船員合宿所	兵庫縣相生町	八八	通普通海員 無料 高級海員 五十錢	自炊普通船員 朝二十五錢 夕二十五錢 船員高級 賄ナシ
因島海員俱樂部	廣島縣土生町	四〇	無料	朝二十五錢 夕二十五錢
門司海員會館	門司市	五〇	無料	朝二十五錢 夕二十五錢
日本海員救濟會門司海員宿泊所	門司市	五四	普通海員 二十錢 高級海員 二十錢	朝二十五錢 夕二十五錢
戸畑トリール船員ホーム	戸畑市	七四	三食付 五十五錢 宿泊ノミ 五十五錢	朝二十五錢 夕二十五錢
日本海員組合戸畑海員ホーム	戸畑市	五〇	無料	朝二十五錢 夕二十五錢
日本海員組合三池船員無料宿泊所	大牟田市	三〇	無料	朝二十五錢 夕二十五錢
日本海員救濟會長崎海員宿泊所	長崎市	四〇	普通室(普通海員) 二十錢 高級海員 二十錢 家族室 二人迄 五十錢	朝二十五錢 夕二十五錢
日本海員組合函館支部 船員無料宿泊所	函館市	五〇	無料	朝二十五錢 夕二十五錢
日本海員救濟會函館海員宿泊所	函館市	二八	普通室 二十錢 家族室 二人迄 五十錢	朝二十五錢 夕二十五錢
日本海員組合小樽宿泊所	小樽市	五〇	無料	朝二十五錢 夕二十五錢

海員協會 宿泊所	大阪市	三〇	無料	自辨
日本海員組合大阪支部無料宿泊所	大阪市	五〇	無料	一日七十錢
商船學校校友會神戸會館	神戸市	六六	舊館ベツト六十錢 疊敷四十錢 新館一室一圓五十錢 二人室二圓五十錢	朝十五錢 夕十五錢
日本海員救濟會小樽海員宿泊所	小樽市	三三	普通室 二十錢 家族室 二人迄 五十錢	朝十五錢 夕十五錢
海員協會 宿泊所	神戸市	五〇	無料	自辨
海員協會 宿泊所	神戸市	三〇	無料	自辨

(五) 海員給料問題

海運不況極度ニ深刻ナル爲一般船主側ヨリ海員給料引下ノ要望次第ニ高マリ既ニ昨年八月大阪船主會ハ日本船主協會ニ對シ之カ引下ノ決議ヲ提出シタリ同十月政府ニ於テハ海運不況對策講究ノ爲主ナル船主、海員ノ各代表者、金融業者、海上保險業者並關係省常務者ヲ以テ臨時海運調查會ヲ新設シ遞信大臣ノ諮問ニ應シテ慎重審議スル處アリタリ而シテ右答申事項中「海員側ニ於テハ船主ノ負擔輕減ノ點ニ關シテ最善ノ考慮ヲ拂フコト尙本件ニ關スル具體的實行方法ニ付テハ海事協同會ニ於テ考究スルヲ適當ト認ム」ナル決議ニ基キ海事協同會勞資委員ハ其後海員最低給料引下ニ關シ懇談ヲ重ネ其ノ

具體的方法ニ付考究中ノ處漸ク本年一月二十三日第五十三回委員會ニ於テ普通船員並無線電信技士ノ標準給料最低月額ニ關スル協定ヲ又四月二十三日第五十六回委員會ニ於テ高級船員給料ニ關スル協定ヲ夫々決議スルニ至レリ左ノ如シ

(一) 普通船員標準給料最低月額協定 (昭和六年一月二十三日第五十三回委員會決議)  
普通船員標準給料最低月額ハ當分ノ間次表ニ依ル

職別	海上實歴	總噸數自一、五〇〇噸	同上自一、五〇〇噸	同上以三、五〇〇噸上
水夫長	八ヶ年	六一圓	六六圓	七一圓
大工	五ヶ年	五七圓	六二圓	六七圓
舵夫	四ヶ年	四七圓	五二圓	五七圓
水夫	二ヶ年	三二圓	三五圓	三七圓
石炭夫	二ヶ年	三二圓	三五圓	三七圓
給仕	二ヶ年	三二圓	三五圓	三七圓

倉庫番若ハ副汽罐番ノ職ニ從事スル水夫若ハ火夫ハ各一人ニ限リ月額金三圓ノ手當ヲ支給ス  
各部見習期間バ乗船後一ヶ年トシ右期間中ハ給料月額金十五圓ヲ支給ス  
右期間ヲ超ユルコト六ヶ月未滿ノ者ニアリテハ給料月額金二十七圓、一ヶ年未滿ノ者ニアリテハ給

料月額金三十二圓ヲ支給ス

海上實歴二ヶ年未滿ノ水夫若ハ火夫ヲ雇傭シ得ヘキ員數ハ見習ヲ除キタル各部員總數ノ各一割五分ヲ限度トス但シ端數ハ五捨六入トス

尙參考ノ爲昭和三年六月海事協同會ニ於テ決定セラレタル普通船員標準給料最低月額ヲ示セハ左ノ如シ

職別	海上實歴	總噸數自一、五〇〇噸	總噸數自三、五〇〇噸	總噸數以三、五〇〇噸上
水夫長	八ヶ年	六五圓	七〇圓	七五圓
大工	六ヶ年	六〇圓	六五圓	七〇圓
舵夫	四ヶ年	五〇圓	五五圓	五七圓
水夫	一年六ヶ月	三五圓	三八圓	四〇圓
石炭夫	一年六ヶ月	三五圓	三八圓	四〇圓
給仕	一年六ヶ月	三五圓	三八圓	四〇圓

(二) 無線電信技士標準給料最低月額表 (昭和六年一月二十三日第五十三回委員會決議)

無線電信技士標準給料最低月額ハ當分ノ間次表ニ依ル

二級主任	總噸數	未二、〇〇〇噸	滿噸	一級主任	總噸數	未二、〇〇〇噸	滿噸		
	六	五	四		七	五	四		
一級主任	總噸數	未二、〇〇〇噸	滿噸	總噸數	未二、〇〇〇噸	滿噸	總噸數	未二、〇〇〇噸	滿噸
	九	〇	四	一	〇	〇	四	一	一
	總噸數	自三、〇〇〇噸	至五、〇〇〇噸	總噸數	自三、〇〇〇噸	至五、〇〇〇噸	總噸數	自三、〇〇〇噸	至五、〇〇〇噸
	一	〇	〇	四	一	一	〇	四	一
	總噸數	自五、〇〇〇噸	以上	總噸數	自五、〇〇〇噸	以上	總噸數	自五、〇〇〇噸	以上
	八	〇	四		一	一	七	四	

備考 有給豫備員制度ヲ含ム社員制度退職金制度並昇給制度ヲ有スル船主ノ従業員ニ對シテハ之ヲ適用セサルモノトス  
海上實歴六ヶ月未滿ノモノニ對シテハ次表ニ依ル

二級主任	總噸數	未二、〇〇〇噸	滿噸	一級主任	總噸數	未二、〇〇〇噸	滿噸
五	五	四	六	五	四	五	四
	總噸數	自二、〇〇〇噸	至三、〇〇〇噸		總噸數	自三、〇〇〇噸	至五、〇〇〇噸
	六	五	四		七	五	四

總噸數三千噸以上ノ船舶ニ乗組ムニハ海上實歴二年以上ヲ有スルコトヲ要ス  
海事協同會ニ於テ前項ノ資格ヲ有スルモノヲ紹介スルコト能ハサルトキハ二年未滿ノモノヲ採用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ未滿期間ニ對シ月額金五圓ヲ低減スルモノトス但シ船主ノ任意ニ依リ二年未滿ノモノヲ採用シタルトキハ本表ニ依ルモノトス  
本表ハ最低月額ヲ示スモノナルヲ以テ本表規定額以上ノ契約ヲ妨ケス尙其後勤績ニ伴ヒ成績良好ナルモノニ對シテハ適宜増給スヘキモノトス  
尙無線電信技士ノ最低賃銀ハ昨年七月二十三日ノ海事協同會定例委員會ニ於テ一旦協定ヲ見本年二月一日ヨリ實施ノ豫定ナリシ處今回更ニ改訂ノ上決定セラレタルモノナリ

(三) 高級船員給料ニ關スル協定 (昭和六年四月二十三日第五十六回委員會決議)

高級船員標準給料最低月額表ヲ左ノ通り改訂ス

遠洋航路又ハ近海航路第二區

總噸數	職名	船長	一等運轉士	二等運轉士	三等運轉士
二、〇〇〇噸未滿		一九〇円	一一五円	八五円	七〇円

馬力	職名	機關	長	一等機關士	二等機關士	三等機關士
一、二、三、五、	馬力未滿 馬力 馬力 以上		一九〇 二〇〇 二二〇	一一五 一三〇 一三五	七五 八〇 九五	七〇 七五 七五

近海航路第一區

馬力	職名	機關	長	一等機關士	二等機關士	三等機關士
三、五、	噸 噸 噸 噸 噸 以上	(甲長)	二二〇 二〇〇 一九五 一四〇	一三五 一三〇 一〇五 九五	九五 九〇 八五 七五	七五 七五 七〇 七〇
				(甲二、乙長)	(甲三)	

沿海航路

馬力	職名	機關	長	一等機關士	二等機關士	三等機關士
二、三、	噸 噸 噸 噸 噸 以上		二二〇 二〇〇 一五〇 一〇〇	一三五 一三〇 九五 八五 七五	九五 八〇 七五 七〇	七五 七五 七〇 七〇

馬力	職名	機關	長	一等機關士	二等機關士	三等機關士
一、二、三、五、	噸 噸 噸 噸 噸 以上		一五〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇	一〇〇 八五 八五 七〇	八〇 七〇 七〇 七〇	七〇 七〇 七〇 七〇

備考

本表ハ最低月額ヲ示スモノナルヲ以テ本表規定額以上ノ契約締結ヲ妨ケス尙其後勤績ニ伴ヒ相當増給スヘキモノトス

左ノ三條件ヲ併備スルモノニ對シテハ本表ヲ適用セス

- (イ) 有給豫備員制度ヲ含ム社員制度
- (ロ) 退職金制度
- (ハ) 俸給ト確實ニ計上シ得ヘキ給與トノ合計カ本表規定額ヲ超ユルトキ

附則

- 一、本表ノ定額ニ對シ當分ノ間左ノ通り減額ス
- (イ) 運轉士又ハ機關士ニシテ給料月額金百二十圓未滿ノ者ハ月額金五圓、同百二十圓以上ノ者ハ月額金八圓
- (ロ) 船舶職員法第一號表ニ依リ乙種一等運轉士免狀又ハ二等機關士免狀ニテ船長機關長ノ職ヲ執ル者ハ月額金八圓、同乙種船長免狀又ハ一等機關士免狀ニテ船長機關長ノ職ヲ執ル者ハ金十圓

(ハ) 船長又ハ機關長ニシテ給料月額金百九十圓以上ノ者ハ金十五圓

二、本協定ハ昭和六年五月一日以降新タニ就職スル者又ハ職務變更アリタル者ニ限り之ヲ適用ス

尙參考ノ爲昭和三年九月六日海事協同會ニ於テ決定セラレタル高級船員標準給料最低月額ヲ示セハ左ノ如シ

總噸數	職名	船長	一等運轉士	二等運轉士	三等運轉士	機關長	一等機關士	二等機關士	三等機關士
自五〇〇〇噸以上		一四〇円	九〇円	七五円	七〇円	一四〇円	九〇円	七五円	七〇円
自三〇〇〇噸以上		一三〇円	八〇円	六五円	六〇円	一三〇円	八〇円	六五円	六〇円
自一五〇〇噸以上		一〇〇円	六〇円	五〇円	四〇円	一〇〇円	六〇円	五〇円	四〇円
自一〇〇〇噸以上		八〇円	四〇円	三〇円	二〇円	八〇円	四〇円	三〇円	二〇円
自五〇〇噸以上		六〇円	三〇円	二〇円	一〇円	六〇円	三〇円	二〇円	一〇円
自三〇〇噸以上		四〇円	二〇円	一〇円	五円	四〇円	二〇円	一〇円	五円
自一〇〇噸以上		二〇円	一〇円	五円	二円	二〇円	一〇円	五円	二円
三、五〇〇噸以上		二〇円	一〇円	五円	二円	二〇円	一〇円	五円	二円

今船員法適用汽船乗組員ニシテ雇入公認ヲ受ケタル者ノ給料月額ヲ本年十二月末日現在乗船者ノ船員原簿ニ依テ調査スルニ左表ノ如シ

(甲) 汽船噸數別高級船員給料表 (昭和六年十二月末日現在)

職務別	三、五〇一噸以上			二、〇〇一噸以上			一、〇〇一噸以上			五〇一噸以上			五〇一噸未満		
	最高	普通	最低	最高	普通	最低	最高	普通	最低	最高	普通	最低	最高	普通	最低
一等運轉士	三三〇	二七〇	二〇〇	一八〇	一三〇	九〇	一七〇	一三〇	一〇〇	一六〇	一三〇	一〇〇	一三〇	一〇〇	八〇
二等運轉士	一三〇	九〇	七〇	一三〇	八〇	六〇	一〇〇	七〇	五〇	一〇〇	七〇	五〇	一〇〇	七〇	六〇
三等運轉士	一〇〇	七〇	五〇	一〇〇	七〇	五〇	一〇〇	七〇	五〇	一〇〇	七〇	五〇	一〇〇	七〇	六〇
四等運轉士	七〇	五〇	三〇	七〇	五〇	三〇	七〇	五〇	三〇	七〇	五〇	三〇	七〇	五〇	四〇
運轉士	三〇	二〇	一〇	三〇	二〇	一〇	三〇	二〇	一〇	三〇	二〇	一〇	三〇	二〇	一〇
航海實習生	五〇	三〇	二〇	五〇	三〇	二〇	五〇	三〇	二〇	五〇	三〇	二〇	五〇	三〇	二〇
機關長	三〇〇	二〇〇	一〇〇	二七〇	一八〇	一〇〇	二七〇	一八〇	一〇〇	二七〇	一八〇	一〇〇	二七〇	一八〇	一〇〇
一等機關士	一五〇	一〇〇	八〇	一五〇	一〇〇	八〇	一五〇	一〇〇	八〇	一五〇	一〇〇	八〇	一五〇	一〇〇	八〇
二等機關士	一〇〇	八〇	六〇	一〇〇	八〇	六〇	一〇〇	八〇	六〇	一〇〇	八〇	六〇	一〇〇	八〇	六〇
三等機關士	八〇	六〇	四〇	八〇	六〇	四〇	八〇	六〇	四〇	八〇	六〇	四〇	八〇	六〇	四〇
四等機關士	七〇	五〇	三〇	七〇	五〇	三〇	七〇	五〇	三〇	七〇	五〇	三〇	七〇	五〇	三〇
機關士	三〇	二〇	一〇	三〇	二〇	一〇	三〇	二〇	一〇	三〇	二〇	一〇	三〇	二〇	一〇
機關實習生	四〇	三〇	二〇	四〇	三〇	二〇	四〇	三〇	二〇	四〇	三〇	二〇	四〇	三〇	二〇
冷蔵機關士	六〇	四〇	三〇	六〇	四〇	三〇	六〇	四〇	三〇	六〇	四〇	三〇	六〇	四〇	三〇
電気技師	一〇〇	八〇	六〇	一〇〇	八〇	六〇	一〇〇	八〇	六〇	一〇〇	八〇	六〇	一〇〇	八〇	六〇
事務長	二〇〇	一〇〇	八〇	二〇〇	一〇〇	八〇	二〇〇	一〇〇	八〇	二〇〇	一〇〇	八〇	二〇〇	一〇〇	八〇

職務別	最高	普通	最低
事務員	一五〇	一〇〇	八〇
醫師	二七〇	二〇〇	一五〇
無線技師	二〇〇	一五〇	一〇〇

備考 右表中船長ノ給料ヲ掲ケサルハ船長中就職ノ認證ヲ受ケサルモノアルノミナラス給料ニ變更アリタル場合ニ於テモ届出ヲ爲ササルヲ以テ其ノ正鵠ヲ期スルコト能ハサルニ因ル

(乙) 汽船噸數別普通海員給料表 (昭和六年十二月末日現在)

職務別	三、五〇一噸以上			一、五〇一噸以上			五〇一噸以上			五〇一噸未満		
	最高	普通	最低	最高	普通	最低	最高	普通	最低	最高	普通	最低
水夫長	一三〇	七〇	五〇	一三〇	七〇	五〇	一三〇	七〇	五〇	一三〇	七〇	五〇
大工(助手)	一〇〇	六〇	四〇	一〇〇	六〇	四〇	一〇〇	六〇	四〇	一〇〇	六〇	四〇
舵夫	七〇	四〇	三〇	七〇	四〇	三〇	七〇	四〇	三〇	七〇	四〇	三〇
甲板倉庫番	六〇	三〇	二〇	六〇	三〇	二〇	六〇	三〇	二〇	六〇	三〇	二〇
水夫	八〇	四〇	三〇	八〇	四〇	三〇	八〇	四〇	三〇	八〇	四〇	三〇
水夫見習	五〇	三〇	二〇	五〇	三〇	二〇	五〇	三〇	二〇	五〇	三〇	二〇
漁撈長	一〇〇	六〇	四〇	一〇〇	六〇	四〇	一〇〇	六〇	四〇	一〇〇	六〇	四〇





其 他	按 摩	音 樂	香 手	
			香港 125	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
〇	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
〇	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃
1	1	〃	〃	〃

（六） 失業船員ノ救濟

本邦海運ハ歐洲大戰以來ノ不況ニ直面シ漸次疲弊ノ度ヲ加ヘ來リタルカ殊ニ最近ニ於ケル經濟界極度ノ不振ニ際會シ繫船相踵クト共ニ失業船員増加ノ傾向顯著ニシテ其ノ結果多年我海運界ニ貢獻シタル優秀ナル熟練船員ハ就職乗船スルコト能ハサルニ至リタルノミナラス轉業亦殆ント困難ナルヲ以テ勢ヒ港灣都市ニ集合シ恒久的失業者トシテ固定スルノ己ムナキ狀況ニ在リ之ヲ此儘放置スルトキハ失業船員ノ増加ニ伴フ失業苦ノ深刻ハ延テ之等船員ノ思想ヲモ惡化セシムルヤモ測リ難ク社會問題トシテ等閑ニ附スルコト能ハサルヲ以テ本年四月一日ヨリ高級船員ニ就テハ海事協同會ヲシテ失業船員授職施設ヲ行ハシメ又普通海員ニ就テハ日本海員組合ニ於テ設置セル失業船員授產施設ニ對シ夫々補助金ヲ支給シ有効適切ニ失業救濟ヲ爲サシメタルカ其ノ取扱成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

救濟船員ノ延人員

海事協同會失業船員授職施設

一四二、六〇二人

日本海員組合失業船員授產施設

四一九、〇四六人

（七） 國際労働總會採擇ノ海員關係各條約案ニ對スル我邦ノ措置

最後ニ從來ノ國際労働總會ニ於テ採擇セラレタル條約案中海員ニ關スルモノニ對スル我邦ノ措置振ニ付述ヘムニ我邦カ本年新タニ批准セルモノハ第十二回總會（一九二九年）ニ於テ採擇セラレタル「船舶ニ依リ輸送セララル重包裝貨物ノ重量ノ表示ニ關スル條約案」ニシテ之ニ必要ナル國內法規ハ既ニ昨年七月一日ヨリ實施濟ノ處遂ニ本年三月十六日條約ノ批准ヲ了シタリ尙其他ノ條約案ニ付述ヘム

第二回總會ニ於テ採擇セラレタル三條約案中

（イ） 海員職業紹介條約案ハ大正十一年十一月二十三日批准ヲ經同日附ヲ以テ公布セラレタルカ其ノ實施ニ付テハ既ニ大正十一年四月船員職業紹介法制定セラレ同年十二月一日ヨリ施行セラレタリ又同年十一月ニハ同法第三條ニ依ル補助金支給ニ關スル勅令、同法施行規則、同法取扱心得等ノ關係法令制定セラレ次テ大正十二年八月ニハ船員職業紹介委員會官制ノ公布ヲ見タリ大正十五年十二月ニハ海事協同會成立シ昭和二年四月一日ヨリ無料紹介業ヲ開始シタルコトハ前述ノ如シ

（ロ） 海員最低年齡條約案ニ付テハ大正十二年三月船員最低年齡法制定セラレ同年六月樞密院ニ於テ本條約案ノ採用方可決セラレ同年十二月十五日ヨリ右關係法律ノ實施ヲ見ルニ至レリ而シテ本條約案

ハ大正十三年八月六日批准ヲ經タリ

(ハ) 船員失業補償條約案ニ付テハ昨年海事法令調査會ニ於テ之カ批准ヲ可能ナラシムル爲關係國內法ヲ改正スルコトニ決定シ目下當局ニ於テ關係國內法改正ノ準備中ナリ

第三回總會ニ於テ採擇セラレタル各條約案中

(イ) 海上年少者體格検査ニ關スル條約案ノ趣旨ハ前掲最低年齡條約案ト共ニ之ヲ一括シテ最低年齡法中ニ制定公布セラレ大正十三年八月六日條約ノ批准ヲ了セリ

(ロ) 石炭夫又ハ火夫ノ最低年齡ニ關スル條約案ハ我國海運界ノ實狀ニ鑑ミ暫ク之カ批准ヲ留保シ居タルカ昭和二年二月前掲最低年齡法ヲ改正シテ十八歲未滿ノ年少者ノ火夫又ハ石炭夫トシテノ使用ニ關スル規定ヲ同法中ニ加フルト共ニ同法施行細則ヲ夫々改正シ何レモ同三年二月二十日ヨリ之ヲ施行シ遂ニ昨年十二月四日批准ヲ了シタリ

第九回總會ニ於テ採擇セラレタル各條約中

(イ) 海員ノ雇入契約ニ關スル條約案及

(ロ) 海員ノ送還ニ關スル條約案ニ付テハ前掲船員失業補償條約案ト同様之カ批准ヲ可能ナラシムル爲目下當局ニ於テ關係國內法改正ノ準備中ナリ

第十二回總會ニ於テ採擇セラレタル各條約中

(イ) 船舶ニ依リ輸送セララルル重包裝貨物ノ重量ノ表示ニ關スル條約案ニ付テハ本項ノ最初ニ於テ説明セルカ如ク本年三月十六日之カ批准ヲ了シタリ

(ロ) 船舶ノ荷積、荷卸ニ使用セララルル勞働者ノ災害ニ對スル保護ニ關スル條約案ニ關シテハ當局ニ於テ銳意考究中トス

昭和八年一月十八日印刷  
昭和八年一月廿三日發行

定價 金壹圓五拾錢

編纂者 遞信省管船局

發行者 財團對米船舶提供記念財團

東京市麴町區大手町二丁目  
振替口座東京二三二番

印刷者 伊澤梅吉

東京市澁谷區千駄ヶ谷町二丁目四八七

發兌 日本海事學會出版部

東京市澁谷區千駄ヶ谷町二丁目四八七  
振替口座東京二二四五二番

142  
92

終